

■H25.1.12 勉強会<沼津駅周辺地区>第1回 傍聴者アンケート結果(公開「可」の記載があったアンケート)

No	本日の勉強会についてのご意見	PIプロジェクトに関するご意見
1	組織や団体が多い中、予算や市・県への話が多く出ていると思う。参加者は組織・団体の者以外にも、一般の主婦、学生、老人など、この町に住む人のリアルな意見を聞いて、話をすべきだと思う。生活、子育て、学生の通学、バリアフリー、介護、リアルな問題が出る中、高架がどのように解決につながるのか話をすれば、前向きに考えられる。	議題のテーマは重要なので、毎回良い方向へ向かうよう、がんばって下さい。
3	①この事業は子、孫のクレジットカードを使って高い買い物をするのであるから、事業費の支払いをする若い世代の参加者を多くすべきだ。高齢者が多い気がする。②女性の勉強会参加者が少ない。女性目線の意見も聞くべきだ。	①まず高架ありきではなく、ニュートラルに戻して議論すべきだ。②周辺市町との合併問題で、鉄道高架事業はネックになっている。周辺市町の住民の意見ももっと聞くべきだ。
4	・資料はあらかじめ参加者には配布されており、文面を読めば承知している事からをていねいに説明して、時間を30分以上費やしたのは非効率である。 ・参加メンバーに、県庁に鉄道高架推進のお願いに行った人達に出席してほしい。 ・出発時点で十分な情報公開がなかった事が、わだかまりの元である。今は時代に合わない事業だ。	鉄道高架見直しの人達だけの声しかない。鉄道高架推進の具体的なメリットの開示がない。沼津市がこの問題で停滞したのは大きな損失である。市民の合意を得られないのは、これが市民がぜひ進めてもらいたい事業ではないからだ。
5	傍聴者の出席意味に疑問。改善策として①グループごとに傍聴者を受け入れて、聞けるようにする②グループごとに部屋を設けて、他のグループの話声が聞こえないようにする。③議論の時間を多くするためには、グループ別々に時間を取っても良いのでは。	鉄道高架等、具体的な内容から議論するのではなく、まちづくりの視点から、どのようなまちにしたいのかという本来の目指すべき方向から話し合いをやるべきである。これがステップ2の目標であると思う。今回の進め方は良いと思う。
6	傍聴の方法とグループ討論について、3グループの意見が全く聞き取れないので、3グループを3つの部屋に分けて、自由に傍聴ができるようにして、話が聞ける状態に配置換えをすべきである。	
7	傍聴者に配慮されたし。聞こえないし、グループ内の考え方が分からない。	ステップ6までのスケジュールがタイトであり、心配です。どのように調整していくのかを知りたい。
10	グループ討論時、各グループの周りで傍聴できればと考える。待ち時間の浪費か。	丁寧にやる事を前提にスピードアップをしてYES、NOの方向性を速やかに出してもらいたい。高架の効果がだんだんしぼんでしまう。
11	PIの勉強会は初めての開催だったので、ファシリテーターの指示を越えて、賛成・反対の意図を他の参加者へ訴求する姿が散見された。しかし適切な誘導により計画(予定)したテーマは消化できた様に感じた。	最大限の努力を傾注されていることは重々承知しているが、ズルズルと進行が遅れることはさけるべき。時間的制限を意識して進めて欲しい。
12	傍聴席から話し合いの場が遠く、また、それぞれ同じくらいなので聞き取りにくい。グループに分かれるのであれば、どこか1つのグループの近くで聞きたかった。各団体の代表が出ているので仕方がないかもしれないが、男性ばかりというのはいかがなものか。複数出席者のいる団体からは女性を出席させてはどうでしょうか。目的に立ち返ってということには大賛成。鉄道高架はただの手段でしかないはず。沼津市の都市計画がはっきりしていないのが遅れの主な原因であることを沼津市は理解していない。全ての項目で高架案と代替案でまとめることは無理がある。	鉄道高架のことだけで話を進めていては先に進まないと考えます。今も立体になっているあまねガード、三ツ目ガードの渋滞は、旧1号、旧246号との平面交差が原因だと思いますので、高架だけでは解消されません。駅北側の道路が整備されたため、三ツ目ガードの渋滞はますますひどくなってきたように感じます。周辺道路整備を含めた整備計画について議論を進めた方が良いと思います。また、246号がリコー通りに接続された後の交通量も考慮すべきと考えます。鉄道高架と渋滞解消は別の話だということをはっきり言うべきであると思います。
13	①勉強会の位置付けについてはっきりしない。(小生の勉強不足か?)②グループ構成員の内容(職業…etc)不明。③ファシリテーター選任方法は?	・沼津の特色をどのように表わすか? ・県東部、すなわち東京・横浜色を全面に出す。
15	過去20数年に渡って、確実な計画を立て、実現に向かって進んできた。しかし、一部の握りの反対者によって停滞しているというより少数の反対者のペースに乗かってしまった感じがする。このまま行くと、将来経済情勢が右下がりに苦しくなると、中止になってしまうのではないかと思心配している(非常に)。一部の反対者のために沼津が死んでしまうのではないか。ある程度強引に進めてもよいのではないか。	早く答えを出して、進めてもらいたい。グループ員の個人的な意見でまとまってしまふ心配がある。グループ員が今の沼津の危機感を感じられない。グループ員にはこの事業が千載一遇のチャンスであるという考えがない。もうちょっと広げて考えてもらいたい。道州制を考え東部の中心となる。
16		どんなデータを用意しようと、反対の人は反対、議論にならないのではない。(データについては有識者会議ですでに妥当性が証明されている。)推進の人たちと、反対の人たちでは、時間をかけても平行線のまま。原では推進の人が集まらず、勉強会自体が開催できないのではないだろうか。早く決断して着工に踏み切ってもらいたい。高架化してそれをまちづくりにどう生かすかを議論したり、原の開発について議論すべきである。
19	勉強会のメンバーが男ばかり。沼津市人口の半分強が女性であることを考えねば。是正を要す。参考(PTA・子供会・婦人会)メンバーがどのような主張・考えを持った団体か不明(説明を要望する。)沼津市職員不在(県と共同事業者であるはず)。	市長は、年頭所感の中で、沼津市民に対し、「税収も落ち込む中、ないものねだりはしないでほしい」と発言している。その一方で県や国に対して鉄道高架の早期着工を陳情に出掛けている。 国も県も沼津市も、また市民も、現在お金がない中、いかに限られた資金を有効に使うか真剣に考えなければならない。「教育」「文化」歴史的資産の保存・活用」「生活道路の整備」「山林・農地の整備」など。 今一度同計画の是非について市県民に情報を公開し、討論していくべきだと考える。PIプロジェクトもその一環ではあるが、沼津市当局が全く協力的でない点が大問題だと思う。 予め、県や市の財政状況(過去10年くらい推移)を示してもらいたい。沼津市はHPなどでは市財政は健全だと言っているが、市民の生活にかかる分野への支出がなく、生活の豊かさを全く実感できない。鉄道高架事業にばかりに税金・借入金がかかることは絶対に許されない。都市計画の専門家も入れた会議を。
20	①勉強会がスタートしてよかった。スピードを上げて論議を深めてもらいたい。②会場が狭い。各グループ毎に一部屋をとってやったらどうか。③傍聴していても、グループの討論内容が分からない。傍聴者にもわかる工夫を。	PI全体としてスピードをもって進めてもらいたい。